

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 21 年 5 月 27 日現在

研究種目：若手研究（B）
研究期間：平成 19 年度～平成 20 年度
課題番号：19791503
研究課題名（和文）：口腔扁平上皮癌における制御性 T 細胞の誘導制御機構とその役割の解明
研究課題名（英文）
研究代表者：
渡邊 賀子（WATANABE YOSHIKO）
浜松医科大学・医学部附属病院・医員
研究者番号：10444358

研究成果の概要：口腔癌組織における制御性 T 細胞の浸潤と予後に関連があるか、免疫組織染色を用いることにより、統計学的な検索を試みた。その結果、制御性 T 細胞の細胞密度が増加すると予後が不良になることが明らかになった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,000,000	0	1,000,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,900,000	270,000	2,170,000

研究分野：外科系歯学

科研費の分科・細目：歯学・外科系歯学

キーワード：口腔扁平上皮癌 免疫担当細胞 ケモカイン

1. 研究開始当初の背景

癌組織中に免疫担当細胞が浸潤し、癌免疫に関与することが知られており、浸潤している免疫担当細胞の種類によって予後と関係がある報告がある。

2. 研究の目的

口腔癌組織中に浸潤している免疫担当細胞の種類を調べ、予後と関係があるかを検討する。

3. 研究の方法

ヒト口腔癌の切片を用いて、免疫組織染色を行なうことにより、浸潤細胞の同定を行なう。また、細胞数と予後との間に相関があるかを調べる。

4. 研究成果

制御性 T 細胞の細胞密度が増加すると予後が不良になることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

Katou F, Ohtani H, Watanabe Y, Nakayama T, Yoshie O, Hashimoto K: Differing phenotypes between intraepithelial and stromal lymphocytes in early-stage tongue cancer. Cancer Res. 67 11195-11201, 2007.

[学会発表] (計0件)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 賀子 (WATANABE YOSHIKO)

浜松医科大学・医学部附属病院・医員

研究者番号：10444358

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者